

音楽の世界で今何が起きている??

阿部 竜之介 『Pepeの視点』

December / 8 / 2023 # 129

---

Trombone & Euphonium奏者の阿部竜之介(Pepe)です。

このメールマガジンでは、僕から見た今の音楽の世界で起きていること、また演奏に関するヒントなどをお届けしていきます。

またメルマガ内でもいろいろな質問に答えていこうと思っていますので、どんどん質問してきてくださいね！

---

## INDEX

[1] 旬な話題、気になる話題

『12月といえば』

[2] Pepeのひとりごと

『言葉』

[3] 演奏のヒント！

『ニュアンス』

[4] 編集後記

---

[1] 旬な話題、気になる話題

『12月といえば』

すっかり冬になってきましたねえ（とは言っても、まだたまにすごく暖かい日があったりして体調管理が大変な状況ではありますが）。あっという間に12月になり、このままだと寒い日々もあっという間に過ぎていって暖かくなっていくのでしょうかねえ・・・（遠い目）。

12月になると、日本のオーケストラはBeethoven作曲の「交響曲第9番」、通称「第九」を演奏する機会がぐんと増えてきます。

僕も、今その真っ只中にいます。

しかし、コロナ禍があったため、合唱団と一緒に演奏をするこの曲の

演奏機会は一昔前に比べると減っていき、僕の所属するオーケストラのことでいうと、第九を演奏するコンサート自体も少し減ってきました。

Beethovenの曲は好きなのですが、Trombone奏者目線でいうと、待ち時間が長いための難しさ、大変さもありません（汗）。

個人的に、あまり限られた期間で同じような曲目が続くことは好きではないので（どうしてもマンネリな感覚が自分の中で出てきてしまいそうになる）、こういう現象は度を越さないようにしてもらいたいなあ、と前から思っていた僕にとってはいい感じにはなってきました（笑）。

しかし、年が明けて来年の1月にも第九を演奏するコンサートがあるんです。まあ、僕は定期的にAlto Tromboneも演奏していきたい人なのでそれでいいのですが、なんだか「年が明けるとしばらく第九はない」という印象をずっと持っていたので、ある意味新鮮ではありますね。

まだまだ慌ただしく毎日が過ぎていく予定ではありますが、時間の使い方、過ごし方に工夫をしながら気分良く過ごしていこうと思っています。

## [2] Pepeのひとりごと

### 『言葉』

金管楽器は、同じ運指（指使い。Tromboneの場合はポジション）でいくつもの違う音が出ます。

では、どのようにしてそのいくつもの音の中から出したい音を出しているのか、という、それは唇の形や口の中の大きさ、吐く息の量やスピードなどを細かくコントロールをして出しています。

こう書くと、難しそうでしょ？

そう、決して簡単ではないんです・・・（笑）。

そういうことから、金管楽器吹きの間での会話では「音が当たる、外れる」という言葉がよく出てきます。

先日、ふと自分の中にこういう3種類の言葉が浮かんできました。  
音を出すことに関しての言葉なのですが、

- ・当てたい
- ・当てる
- ・当たる

これ、金管楽器吹きにはよく分かるのではないかと思うのですが、上から下に向かって、自分の演奏の状態の進化だと感じています。

金管楽器を吹いている人は、わかってくれると思います。

まず、最初の「当てたい」は練習し始めに考えることですね。  
そして練習を重ねていって「当てる」ことができる状態になる。  
そのあと、理想の形として僕の中では最後の「当たる」という状態があります。

最後の「当たる」状態とは、特に意識することなく、普通に演奏をしていると  
当たる（当たるのが普通）という状況ですね。  
演奏する（当てる）のに大変ではない中音域の音のことだと思ってイメージ  
するとわかりやすいと思います。

この感覚を、自分にとって大変な高音域や低音域のときにも「常に」持って  
いたいなあ、といつも思っています。

でも、現状はまだまだ「当たる」という状況にすべてを持っていくことが  
できないでいます・・・（涙）。  
まあ、だから毎日コツコツと練習を重ねているのだと思うのですが、これに  
終わりはありませんねえ。

早く自分の頭の中から「当てる」という言葉を排除して「当たる」状況に持っていけ  
るよう、今日も練習がんばります！！

### [3] 演奏のヒント！

#### 『ニュアンス』

今月は「ニュアンス」というテーマで。

音楽演奏には、この「ニュアンス」というものがとても作用します。  
ニュアンスと一言で言ってもいろいろありますが、今回のここでは、  
よりシンプルなものをイメージしてみてください。  
たとえば、「Forte」や「Leggiero」や「Pesante」など。

「Forte」は音量の指示というイメージがとても強いと思いますが、音量  
以外のニュアンスももちろん含まれています。そう、「強い」ですね。

そういうニュアンスの練習って、みなさんやっていますか？  
特にこういうニュアンスに特化した練習をやっている人は、ほとんど  
いないのではないのでしょうか。

それと同時に、

「でも、そういう練習って何を使えばいいの？」

「どうすればいいの？」

という疑問が出てくる人も多いと思います。

ニュアンスの練習（ニュアンスを付ける練習）には、特別なエチュードというものは必要ないと思います。

今手元にある楽譜（曲でもエチュードでもなんでも）を使って、自分自身でニュアンスを（勝手に）付けて、そのように演奏できるように練習してみましよう！

その曲にあったニュアンスをつけることはそれほど大変ではないですが、フレーズのイメージと少し違うニュアンスをつけるようにやってみると、とっても大変なことがわかると思います（汗）。

ニュアンスを表現するために音量が少し変わることは、往々にしてよくあることだと思います。そこはあまり怖がらないで、ぜひやってみてください。

あまりにも音量の指示とかけ離れることはよくありませんが、ニュアンスをうまくつけることができれば、気にならないことはよくあると思います。それらがどのくらいまでできるのか、というのは、練習をやっていかないとわかるようにはならないと思います。

ニュアンスをつけることにこだわりつつ、かつ演奏を楽しみながらぜひ練習してみてくださいね！

---

## 編集後記

1年くらい前（もっと前からだったかな？）から睡眠時間をしっかり取る（目標7時間！）ように生活を変えていこうと努力しているのですが、ここ数ヶ月、忙しい中でもそれが比較的できてきているなあ、と実感しています。

もちろん、4時間くらいの日が続いたりすることもあります。そこは無理をしないで。がんばり過ぎもストレスになりますからねえ。

7月にイタリアに行ったときは、毎日他のゲスト・アーティストの人たちとの夜ごはんが夜中0時少し前くらいからで、毎日3時とか3時半に寝るような生活（翌朝は9時からレッスン）だったので、4時間寝られればいいという数日間もありましたが、そういうときに踏ん張ることができたのも、可能なときになるべく7時間寝るようにしているからだと感じています。

年齢を重ねていく上で、やっぱり睡眠、休息はとても重要だと実感しています。

僕も、この歳になってやっと後回しにできることは後回しに、というようなことができるようになり（笑）、睡眠時間の優先順位を上げることができるようになりました。

身体と心が気分良く過ごせるように、これからも工夫をして過ごしていこうと思います。

-----  
阿部 竜之介(Pepe) オフィシャルウェブサイト

<http://www.pepeabe.com>

ご意見、感想、質問などはメールでどうぞ！

[info@pepeabe.com](mailto:info@pepeabe.com)  
-----

©阿部竜之介 『Pepeの視点』の配信停止はこちらから

<http://www.mag2.com/m/0001601194.html>